

モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より

2幕のドラマ・ジョコーソ「罰せられた放蕩者またはドン・ジョヴァンニ」というのがこの有名オペラの正式なタイトルである。「罰せられた」、つまり最後には地獄落ちが待っているのに「ドラマ・ジョコーソ（愉快的オペラ）」なのは何とも皮肉だが、ひたすら女性を追いかけて思いのままに生きるドン・ジョヴァンニのふるまいは、確かに悲劇よりも喜劇に近い。彼に振り回される女性たちも、悲劇に負けないしたたかさを持っている。

台本はオペラの前作《フィガロの結婚》と同じく、モーツァルト(1756-1791)と名コンビを組んだロレンツォ・ダ・ポンテ(1749-1838)である。ドンナ・アンナの家忍び込み、父である騎士長と決闘になり、殺してしまうドン・ジョヴァンニ。かつての妻ドンナ・エルヴィーナ、村娘ツェルリーナも絡んで物語は展開し、悔い改めないドン・ジョヴァンニは、騎士長の石像もろとも地獄に落とされる。オペラは1787年、プラハで初演された。

二短調の主和音ではじまる「序曲」は、地獄へと向かうドン・ジョヴァンニの運命を暗示するようだが、すぐに音楽は明るい二長調に転じる。

「酒がまわったら今度は踊りだ」は、「シャンパンの歌」としても知られるドン・ジョヴァンニのアリア。失敗に懲りない彼が、娘っ子と踊り明かすのだ、と快速なスピードで歌う。

「ぶってよ、マゼット」は、誘惑に負けそうになったツェルリーナに気分を害する婚約者のマゼットを、彼女が上手になだめるアリア。

「私の幸せは彼女にかかって」は、ドンナ・アンナの婚約者、ドン・オッターヴィオのアリアで、1789年のウィーン上演で追加された。父親を殺したのがドン・ジョヴァンニと知ったドンナ・アンナを思いやる優しい歌である。

「お互い手を取り合おう」は、「お手をどうぞ」の訳でも知られ、ショパンやリストも変奏曲の主題に用いた有名曲。ドン・ジョヴァンニがツェルリーナを誘惑し、その気にさせる。

遠山菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。